

シンポジウム | シンポジウム：[シンポジウム1（教育委員会シンポジウム）] 診療参加型臨床実習マニュアルを老年歯科医学教育に活かす

📺 オンデマンド配信対応プログラム

📅 2025年6月28日(土) 9:30 ~ 10:20 🏢 第1会場（幕張メッセ 国際会議場 104）

シンポジウム1（教育委員会シンポジウム） 診療参加型臨床実習マニュアルを老年歯科医学教育に活かす

座長：會田 英紀（北海道医療大学 歯学部 口腔機能修復・再建学系クラウンブリッジ・インプラント補綴学分野）、伊藤 加代子（新潟大学 医歯学総合病院口腔リハビリテーション科）

【ねらい】

教育委員会で作成した2つの診療参加型臨床実習マニュアル「口腔機能低下症の検査」、「高齢者歯科治療における生体情報モニタリング（仮）」は、老年歯科医学（別冊 電子ジャーナル）において公開されています。そこで本委員会セミナーを通じて、多くの会員が本マニュアルの内容についての理解を深めると共に、効果的な活用法について情報を共有することで老年歯科医学教育の全体的な質を高めることを意図している。

9:30 ~ 9:50

[SY1-1]

臨床基礎実習と診療参加型臨床実習を通じた口腔機能低下症の学生教育

○竜 正大¹ (1. 東京歯科大学老年歯科補綴学講座)

9:50 ~ 10:10

[SY1-2]

診療参加型臨床実習マニュアル「高齢者歯科医療における生体情報モニタリングマニュアル（仮）」

○大渡 凡人¹ (1. 公立大学法人 九州歯科大学 特任教授)

シンポジウム | シンポジウム：[シンポジウム1（教育委員会シンポジウム）] 診療参加型臨床実習マニュアルを老年歯科医学教育に活かす

◆ オンデマンド配信対応プログラム

📅 2025年6月28日(土) 9:30 ~ 10:20 🏢 第1会場（幕張メッセ 国際会議場 104）

シンポジウム1（教育委員会シンポジウム） 診療参加型臨床実習マニュアルを老年歯科医学教育に活かす

座長：會田 英紀（北海道医療大学 歯学部 口腔機能修復・再建学系クラウンブリッジ・インプラント補綴学分野）、伊藤 加代子（新潟大学 医歯学総合病院口腔リハビリテーション科）

9:30 ~ 9:50

[SY1-1] 臨床基礎実習と診療参加型臨床実習を通じた口腔機能低下症の学生教育

○竜 正大¹ (1. 東京歯科大学老年歯科補綴学講座)

【略歴】

2005年 東京歯科大学卒業
2009年 東京歯科大学大学院歯学研究科（歯科補綴学専攻）修了
2009年 東京歯科大学有床義歯補綴学講座 助教
2014年 スイス・バーゼル大学歯学部補綴科 客員教授
2015年 東京歯科大学老年歯科補綴学講座 助教（改組による）
2016年 東京歯科大学老年歯科補綴学講座 講師
2021年 東京歯科大学老年歯科補綴学講座 准教授

口腔機能低下症は2016年に日本老年歯科医学会が提唱し、2018年4月に保険収載された病名であり、歯学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版にも新たに収載された項目である。口腔機能の低下を早期に適切に診断し、適切な管理と動機付けを行うことで、口腔機能低下のさらなる重症化を予防するとともに、口腔機能を維持、回復することにより国民の健康長寿の延伸に貢献できると考えられる。そのためには、学生教育において口腔機能低下症の理解を深めることが非常に重要と考えられる。

口腔機能低下症は、口腔機能精密検査を行い、口腔衛生状態不良、口腔乾燥、咬合力低下、舌口唇運動機能低下、低舌圧、咀嚼機能低下および嚥下機能低下といった7つの下位項目のうち3項目以上該当する場合に診断される。口腔機能検査の正しい実施法と診断について卒前教育の臨床実習で履修しておくことは、口腔機能低下症の理解のために非常に重要なステップであると考えられる。

東京歯科大学では、2015年から第5学年の診療参加型臨床実習において口腔機能検査の相互実習を実施するとともに、自験ケースとして口腔機能検査を患者に対して全学生が実施している。また、2019年からは第3学年の臨床基礎実習でも口腔機能検査の実習を実施している。これらの実習においては、当講座が製作した実習マニュアルと教育用動画を使用し、教育を行ってきた。また、コロナ禍においてはオンラインによる口腔機能検査の実習も行ってきた。

一方で、これらの学生教育においては、全国の歯学部、歯科大学において高い同一の品質の教育を提供することも重要である。日本老年歯科医学会では、口腔機能低下症を診断するための7項目の口腔機能検査法と評価に関する理解を卒前教育におけるミニマムの履修内容と考え、2024年8月に診療参加型臨床実習マニュアル「口腔機能低下症の検査」を公開した。このマニュアルには当講座がこれまで実施してきた内容も網羅されており、指導者と学

生双方にとって非常に意義のあるものとなっている。加えて、このマニュアルの内容を視覚的に理解する一助とし、より充実した臨床参加型実習を実施できるように、日本老年歯科医学会では教育用動画「口腔機能低下症の検査」の制作も行っている。本学では、今年度からこの診療参加型臨床実習マニュアルを臨床実習に取り入れて教育を行っている。

本講演では、本学の卒前教育における臨床基礎実習と診療参加型臨床実習を通した口腔機能低下症の教育内容とその変遷を紹介するとともに、診療参加型臨床実習マニュアル「口腔機能低下症の検査」および教育用動画「口腔機能低下症の検査」の内容とその活用法について整理し、口腔機能低下症の学生教育について考えてみたい。

シンポジウム | シンポジウム：[シンポジウム1（教育委員会シンポジウム）] 診療参加型臨床実習マニュアルを老年歯科医学教育に活かす

◆ オンデマンド配信対応プログラム

📅 2025年6月28日(土) 9:30 ~ 10:20 🏢 第1会場（幕張メッセ 国際会議場 104）

シンポジウム1（教育委員会シンポジウム） 診療参加型臨床実習マニュアルを老年歯科医学教育に活かす

座長：會田 英紀（北海道医療大学 歯学部 口腔機能修復・再建学系クラウンブリッジ・インプラント補綴学分野）、伊藤 加代子（新潟大学 医歯学総合病院口腔リハビリテーション科）

9:50 ~ 10:10

[SY1-2] 診療参加型臨床実習マニュアル「高齢者歯科医療における生体情報モニタリングマニュアル(仮)」

○大渡 凡人¹ (1. 公立大学法人 九州歯科大学 特任教授)

【略歴】

1983年 九州歯科大学卒業
1987年 東京医科歯科大学 大学院歯学研究科 歯科麻酔学 修了
1987年 新潟大学 歯学部 第1口腔外科学講座 助手（全身麻酔担当）
1989年 東京医科歯科大学 歯学部 歯科麻酔学講座 助手
2000年 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 口腔老化制御学 講師
2006年 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 口腔老化制御学 助教授
2007年 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 高齢者歯科学分野 准教授
2016年 九州歯科大学 口腔保健・健康長寿推進センター 教授
2019年 九州歯科大学 リスクマネジメント歯科学分野 教授
2023年 九州歯科大学 特任教授（現職）

【主な資格】

日本老年歯科医学会 認定医
日本歯科麻酔学会 専門医・認定医
日本障害者歯科学会 認定医

有病率が高い高齢者の歯科医療では、若年者に比較して全身的偶発症が発生しやすい。演者の調査では、有病高齢者の抜歯において、約1割に全身的偶発症が発生し、その9割以上を著しい血圧上昇や不整脈など、循環器系が占めていた。その主要な背景因子は、加齢による予備力低下と、全身疾患、なかでも循環器疾患の併存率上昇である。いうまでもなく、安全は医療における最優先事項である。学生教育において医療安全に関する教育は必須であるが、高齢者歯科学における優先順位は特に高いといえる。

全身的偶発症のほとんどは、バイタルサインの異常値が先行する。これらを早期に発生し、適切に対応すれば、重篤な結果の回避可能性を高めることができる。特に、循環器系の全身的偶発症は、短時間で致命的となりうるため、バイタルサイン異常値の早期発見は安全の「鍵」といえる。そして、この鍵を実現する手段が、「生体情報モニタリング」である。生体情報モニタリングの正しい実施、得られるバイタルサインの正確な理解と診断、適切な対応、は医療安全の実現における基本である。そして、これらが可能な歯科医療従事者の育成は、高齢者歯科学の卒前教育において実現すべき必須事項であろう。

歯学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)においても、学修目標として「バイタ

ルサインの意義とそのモニタリングの方法を理解している」、「バイタルサイン(中略)を測定し、評価できる」がある。しかし、演者の知るかぎり、その教育のほとんどは、歯科麻酔学で行われており、高齢者歯科学に占める割合は低い。また、治療前後のバイタルサイン測定は行われるようになったが、生体情報モニタリングを実施している施設は依然として少ない。このように、高齢者歯科医療における生体情報モニタリングの必要性に関する理解度は低いのが現状である。しかし、今後、増え続ける重篤な全身疾患をもつ高齢者の歯科医療において、その重要性が高まることは明らかであり、これらの問題を解決できる実効性の高い教育は、高齢者歯科学において早急に実現すべき課題であるといえよう。

そこで、これらの課題を解決し、超高齢社会に正しく適応できる人材を育成するため、日本老年歯科医学会は、診療参加型臨床実習マニュアル「高齢者歯科医療における生体情報モニタリング(仮)」を作成することとした。その目的は、「安全な高齢者歯科医療実現に必要な、生体情報モニタリングの知識、技能、基本的対応を修得すること」とし、全国の歯学部、歯科大学の卒前教育で共通して使用できるツールとなること、を目指した。一方、生体情報モニタリングに関する教育は、関連するすべての領域で共有される必要がある。そこで、本マニュアルは関連学会と共同で作成することとなった。現時点において、本マニュアルは作成過程にある。このため、講演ではその概要に関連事項を加えて解説する予定である。